

事業報告 平成30年度 教育事業 通学合宿

平成31年2月12日(火)～15日(金)
【対象】小学校6年生
【場所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣 旨～

小学校卒業前に、同じ中学校へ入学する児童たちが共同生活を送ることで、互いを知り、連帯感を生み、よりよい中学校生活へとつなげていくきっかけとする。

～主催・実施校～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

実施校：伊那市立高遠小学校 伊那市立高遠北小学校 伊那市立美篤小学校 伊那市立新山小学校
伊那市立高遠中学校

～活動日程～

12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)
* 通学合宿の荷物を持って、通常通り学校に登校	6:00 起床・身支度・清掃 7:00 朝食 7:30 自然の家出発 登校 高遠北小7:50着 高遠小 8:10着	6:00 起床・身支度・清掃 7:00 朝食 7:30 自然の家出発 登校 高遠北小7:50着 高遠小 8:10着	6:00 起床・身支度・清掃 7:00 朝食 7:30 自然の家出発 登校 高遠北小7:50着 高遠小 8:10着
学校生活	学校生活	学校生活	学校生活
迎えバス 高遠小 16:10発 高遠北小 16:30発	迎えバス 高遠小 15:10発 高遠北小 15:30発 16:00 荷物整理、身支度等	迎えバス 高遠小 16:10発 高遠北小 16:30発	* 通学合宿の荷物を持って通常通り下校
17:00 始めの会 入室・荷物整理	16:30 中学生との交流会	17:00 洗濯物回収	
18:00 夕食 19:00 入浴	18:00 夕食 19:00 入浴	17:30 夕食 自炊 ～みんなで調理～	
20:00 宿題・学習	20:00 宿題・学習	19:30 プラネタリウム鑑賞	
20:30 アイスブレイク ～仲間作り～	20:30 自由時間 洗濯(必要な人)	20:30 入浴(～21:30) 宿題・学習 アンケート記入	
21:30 就寝準備 22:00 就寝	21:30 就寝準備 22:00 就寝	22:00 就寝	

～参加者～

高遠小学校 36名(男子19名・女子17名)

美篤小学校 1名(男子1名)

高遠中学校 13名

高遠北小学校 10名(男子5名・女子5名)

新山小学校 1名(男子1名)

合計61名

～活動トピックス～

活動Ⅰ 「宿題・学習」

分からない所をボランティアに教わりながら、各自が課題に取り組んだ。友達を待っている間は自主学習をすすめた。「みんなで宿題をするのって楽しいね。」という声も聞こえた。





活動Ⅱ「アイスブレイク」～仲間作り～

大学生のボランティアが中心となって、仲間作りのアイスブレイクを行った。最初は、緊張した表情だった児童達も、ゲームが進むにつれて打ち解けて、歓声や笑い声があがっていた。ゲームが終わり、宿泊棟に戻る頃には、自然と会話が生まれ、班の仲間と並んで楽しげに帰る姿が見られた。

活動Ⅲ 「中学生との交流会」

高遠中学校の2年生の生徒会役員13名が中心となって交流会を行った。中学生はゲームを進行したり、輪に入って一緒に活動したりした。質問コーナーでは、小学生から、中学校生活などについて質問が出され、先輩の話を熱心に聞いていた。



活動Ⅲ「夕食自炊 豚汁・いなり寿司・細巻寿司」 ～みんなで調理～



「豚汁・いなり寿司・細巻寿司」を作った。児童は前日の役割分担や手順を確認した後、野菜を切ったり、細巻やいなり寿司を作ったりした。自分の分担が終わると友達に「これやるね」と声をかけ、自分から気づいて行動し、班の仲間と協力して完成させることができた。

～参加者の声～

《参加児童》

- ・最初中学校へ行くのは不安だったけど不安がなくなった。
- ・1日目はなれなくてあまりねむれなかった。2日目に「家に帰りたい」「家族に会いたい」と思ったけど〇〇先生が「大丈夫!!」と声をかけてくれたので安心しました。
- ・テレビやゲームがなくても、それがぶっとぶくらい楽しいことばかりでした。学習の時間では、ボランティアの先生が教えてくれたのでとてもうれしかったです。ちがう学校の人のことも知れたし、中学校へ行って友達作りはそんなに困らなそうです。
- ・最初は親がいない生活に「やったー!」とみんな言っていたけど、2, 3日たつと「ああ、おうちに帰りたい」という人がいて、やっぱりみんな親が好きなんだと思いました。

《参加児童保護者》

- ・4日間親元から離れたことで、自分でできることは自分でやろうとする気持ちが強くなったと思います。中学校入学前に他の小学校の子ども達と過ごす機会は短時間であっても、寝食を共にすることで人間関係の不安も少しなくなったと思います。
- ・参加前は他校の児童に対してマイナスのイメージを持っており、乗り気ではなかったのですが帰ってきて「新しい友達が4人できた!楽しかった!」と帰宅し、中学校への前向きな気持ちが膨らんだようです。中学校生活に対して楽しいイメージが持ててよかったです。

《大学生ボランティア》

- ・子どもたちの言動や心情の変化を見ることができたことに加え、班としての意識の高まりを捉えることができた。さらに小学校の見学をして、教師と児童のかかわりを学ぶことができた。

～成果と課題～

- 多くの児童の感想に「友達ができた」という言葉があり新しい人間関係の構築の一助となった。
- 過去2年間インフルエンザの流行により、実施できなかった「中学生との交流会」を持つことができた。参加者は中学生と一緒に活動することで、中学校の様子や雰囲気を感じることができた。
- 開催期間、実施内容の検討を行い、より効果的にねらいを達成できるプログラム作成を行う。
- 個々の児童の状況に応じて、きめ細かな対応ができるような支援体制を検討する。